

# ちかひ

2014

彼岸号

VOL.140

浄土宗西山深草派宗務所

総本山 誓願寺

## ◆ 目次 ◆

- 慈光 (第26回)
  - 賢問子行状記⑩
  - 宝蔵寺と伊藤若冲
  - 曼荼羅相承を受けて
  - インド **ド** **タ** **バ** **タ** 夫婦道中記③④
  - 総本山誓願寺だより
  - 何でも、お寺探偵団、Vol. 38
- 金袋山 宝池院 蓮華寺

### ◆ 宝蔵寺蔵 伊藤若冲筆「竹に雄鶏図」 ◆





# 慈光 26

「慈光」。万物を育成し世に恵みを与える光。大慈悲の光明。阿弥陀さまの分け隔てのない暖かい優しい光。私たちはこの光を頂き、生かさせていただいております。慈光に照らされた私たちの生活を今一度考えてはどうでしょうか？タイトルの「慈光」は、鈴木皓道先生のお寺本宿町「慈光院」より拝しました。

## 【欺く】

あざむ

日本の言葉に「欺く」という言葉があります。自然と嫌な心になります。天を欺き、佛を欺き、人を欺き、そして忘れてならないのは、自分自身を欺くことです。

人間は、他の動物よりも知恵があり、この知恵で知らずして自分自身を欺いているのが、私どもではないでしょうか？

明治の中頃、京都である高僧の集まりがありました。その会議も終わ、小品の好い精進料理が並び、それぞれに語り合いつつながら戴いておりました。すると、ある高僧のひとりがお吸い物を一口したとたん、

「おや、これは妙だ。精進ではない。生臭の味だ。今すぐ料理人を呼べ」と声を荒げました。下座に現れた料理人に対し、

「私は今このお吸い物を戴いてしまった。これは生臭の味だ。私は九才の折、佛に誓って僧となり、今日まで生臭を口にしたことはない。この始末をどうしてくれるか？」

鬼の行相で鋭く述べたのです。これを下座で聴いていた料理人は、

「御坊さま、まことに申し上げにくいですが、よく生臭の味とおわかりになりましたね。今、九才の時から生臭は口にしてないと言われたが、生臭の味とお解りになったのは、すでに生臭をお召しに

なっていたからでしょう」

さて、皆さまはこの遣り取りをどのようにお感じになりましたか。

## 欺く

私どもは、天を欺き、佛を欺き、自分を大きく欺く生活をしていると思いませんか。私は昨夜の勤めの折、一日の出来事、特に自分の汚い心を思い出して、

「こんな汚い心の私です」

と佛さまに心の中で語ります。大声で人に聞こえるように語る必要はありません。一刻でよいから、佛さまを欺いた自分を、見つめ直してみましよう。

前布教講習所 所長  
慈光院 住職

鈴木 皓道



# 賢問子行状記

けん むん し ぎょうじょう き

10

宝蔵寺住職 小島英裕

## 第六話

### 賢問子、親子対面

芥子国は、

「これは神さまのお導きだ」

と喜び、役人と共に牢獄に行きま  
した。役人は番所で待ち、芥子国  
は一人で中へ入り、牢獄を見渡し  
ました。

「この牢獄の中に賢問子といふ方  
はいますか。お父さん、賢問子さ  
ん」

と呼び掛けました。その声を聞いた  
賢問子は不思議に思い、牢獄の  
窓より覗き見ました。そこには幼  
い子どもが涙を流していました。  
その様子を見て賢問子は声を掛け  
ました。

「お前は誰だ。どうして私の名前  
を呼ぶ。私が賢問子だ」

「お父さん。お父さんなの。息子  
です、息子の芥子国です」

「息子。お前は本当に私の息子な  
のか。私の息子といつても証拠が  
無い」

「お父さんは唐に居た時、私の母  
柳営女と結婚していたはずです。  
十一年前、鬘一丁で作った木の太  
鳥に乗って日本に帰ったでしょう。  
その時、母に預けた鬘、これが親  
子の証です」

「これは、春日明神さまから戴い  
た家宝の鬘。お前があの子の  
のか。息子なのか」

親子の対面を果たした芥子国は、  
父賢問子の姿をよくよく見ました。  
髪は長く、髭も伸び、顔さえ見え  
ません。やせ細った身体は、  
見るも無残な姿でした。芥子国は、  
「お父さんが唐で造った阿弥陀さ

まは、今も人々の信仰を集めてい  
ます。そんな凄い仏さまを造る人  
に悪いことなんて出来ません。私  
が代わりに牢獄に入ります」  
と牢獄の窓にしがみつき、大声を  
あげ泣きました。

賢問子は、

「私には罪があるのだ。私の代わ  
りに牢獄に入ることはない。心配  
するな」  
と涙を流し芥子国に言いました。  
すると芥子国は首を横に振り言  
いました。

「お父さんを置いて唐に帰る訳に  
は行きません。お父さんの罪が晴  
れるように、毎日春日明神さまに  
お願いに行きます。お父さんもこ  
こで一緒にお願いして下さい」

芥子国は直ちに牢獄を後にして、  
春日大社に向かい、本殿の前で叫  
びました。

「私の命と引き換えにしたとして  
でも、罪のない父をどうぞお助け  
下さい。父を牢獄から出して下さ  
い」(つづく)

# ミホミュージアム学芸員

## 岡田秀之

### 宝蔵寺と伊藤若冲

私が初めて宝蔵寺を訪れたのは、二〇一一年十一月下旬、小島御住職の晋山式を間近にひかえたご多忙な時期で御住職は不在でしたが、伊藤家のお墓へのお参りをさせて頂きました。その後、墓石に彫られた名前などを調査するため、翌年三月に再訪を許されました。宝蔵寺にある伊藤家の史料は、美術史家の秋山光夫氏（一八八八〜一九七七）が既に紹介されていますが、一昨年以来の再調査によって新しい事実が分かってきました。たとえば、晩年一緒に生活をしていた妹と考えられていた人物が、実は早く亡くなった弟の妻であったことや伊藤家の人々の没した年や年齢などです。また、これまで贋作とされてきた若冲筆「竹に雄鶏図」が、四〇代前半頃の作と考

えられるすばらしい作品だったのは大きな収穫でした。宝蔵寺には、この作品のほか拓版画とよばれる技法でつくられた「髑髏図」や処冲という人物が描いた「蟹図」なども伝わっており、その一部は今年から開催される若冲生誕会とくに公開されます。

若冲自身は、相国寺や晩年を過ごした石峰寺など禅宗へ帰依しましたが、宝蔵寺はもちろん本山である誓願寺もまた伊

藤家にとって特別なお寺であったことは疑いありません。二股大根が画面の中央で横になり、その周りを野菜たちが囲んでいる「果蔬涅槃図」（京都国立博物館蔵）はもと誓願寺に伝わった作品で、若冲が伊藤家一族の冥福と子孫繁栄を願って描いたものでしょう。伊藤家一族の墓石や史料がこれからも末長く保存されていくことを切に願います。

### 表紙「竹に雄鶏図」解説

雄鳥が片足を挙げて、雄鶏の羽は墨で濃淡を分け、雄鶏の作風を四代前と考えられます。



髑髏図



## 曼茶羅相承を受けて

去る10月12日～16日の5日間に渡り、京都の総本山誓願寺に於いて井ノ口泰淳管長猥下のもと、曼茶羅相承が執り行われました。

曼茶羅相承とは、お祖師さまであられる西山国師が感得した當麻曼茶羅の奥義を、師から弟子へと口伝によって伝えるもので、誓願寺で開筵されるのは実に17年ぶりとのこと。西山三派から浄土宗西山深草派44人、西山浄土宗37人、浄土宗西山禅林寺派23人の計104名の受者が一堂に会しました。

12日の9時に登山し受付を済ませると、すぐに麻で織られた薄茶色の涅槃衣に着替えます。受者は5日間この涅槃衣を着て過ごします。すぐに本堂に入り開闢の法要、曼茶羅相承の始まりです。本堂正面に掛けられた曼茶羅を拝しながら、百人以上もの僧侶が一斉に称えるお経は圧巻。幾重にも堂内に響き渡るその声は、これから始まる曼茶羅相承への決意を新たにさ

せてくれました。

この度相承した當麻曼茶羅とは、奈良の當麻寺のご本尊として祀られていた大きな4メートル角もある凶像のことで、天平の昔中将姫が極楽浄土の様子を蓮糸で一夜にして織りあげたとされるものです。

また「観無量寿経」というお経の教えに沿って説かれてあり、管長猥下のご尊講、そして稲吉師の助講では、全体の絵解きの講義はもちろんのこと、そこに描かれている人ひとり、鳥一羽などの細部に至るまで、その深い意味や教えについて詳しくご講義くださいました。その内容の難しさに頭を悩

ますところも多々ありましたが、今回のご尊講、助講を受けることによつて、我が宗派の教義の根幹となる「観無量寿経」の造詣を深めることができたのは、浄土宗西山深草派の僧侶としての自信に繋がるものとなりました。

4日間のご尊講、助講の講義日程が終了すると、5日目の最終日には曼茶羅伝法の儀式が本堂にて執り行われます。

堂内に入る光を全て遮り、その荘厳でピンと張りつめた緊張感漂う暗闇の中、たった二本の蠟燭の灯りのもと、受者の代表が伝灯師である管長猥下の御前に跪き、曼茶羅の教えを授け与えることを乞い願います。すると伝灯師が、「よし、わかった」と言わんばかりに錫杖を横に振って鳴らし、口伝によつてその教えを授けて下さいます。肅々と伝法の儀式が執り行われる中、伝灯師が曼茶羅の教えを伝え終えると堂内に灯りが点き、お勤めをした後、受者に印證が授けられます。

伝法が終わってからの管長猥下のご挨拶では、104人もの受者が無事に満行出来たことを心からお慶びくださり、そのお言葉に胸が熱くなるのを感じずにはいられませんでした。

今回、曼茶羅相承をやり遂げたその感動と自信を胸に、今後理解をより一層深め、檀信徒への布教に役立てていきたいと思っております。

報土院住職 酒井安仁



## 釈然としなかった日

その1

川岸には船頭が待っていて、すぐにボートに乗り込んだ。乗り合いだと思っていれば、結構大きなボートに僕たち二人だけだった。日の出前後が最も観光客が多いので、昼下がりでは客は殆どいないのだろうが、かえって僕たちにはその方が都合良かった。

おもむろに利子は愛犬『龍』の遺骨を取り出し、約束通りガンガーに二人で流した。それだけではなく、彼女は涙を拭いしつつ自分の両親の遺髪をも持ってきていて、そつと流した。川面に向かって僕たちは手を合わせた。

ガンガーを上流に斜めに向かったボートは、流れに逆らいながらも対岸にある、ラームナガル城の城塞博物館近くの岸にたどり着いた。岸辺から道路に出るまでの広い砂地には、おびただしい数の人糞が散在していた。近くの住人

たちが水を入れた壺を片手に、毎朝ここに来て、少しづつ位置を変えながら用を足しているのだろう。踏まないように注意を払いながら、僕たちは道路に向かった。

博物館の回りには沢山の店があり、炎天下でボートに乗っていた為、喉も渴いていて、ヨーグルトが美味しそうだったので、船頭さんにも一杯おごって喉を潤した。船頭さんは、出口付近で待つという約束で、僕たちは博物館に入った。城の各部屋には、ムガル帝国時代の武器や日用品などが数多く展示してあった。

帰りのボートは行きとは逆に、流れに乗っていたので速かった。途中、漕ぎ手を僕に交代してくれてオールを握ったら、オールの柄が孟宗竹の様な太い竹で、小さな手の僕には握るのに苦勞をしたのだが、すぐに要領を掴みスムーズに漕ぐことができた。

かっているのに、ドアを強く押すと内側に少し開いてしまふ。ドアは部屋の外側に開く状態だが、へたに閉じると止まるはずの柱の穴に金具が引っかかる通り返し、ドアが内側に行き過ぎるのだ。普通ならドアが止まるように細い角材を柱に沿わせておくのに、それが無いのである。取り敢えず盗まれた物が無いか、バッグを開けて、特に貴重品がなくなっていないかを急いで調べたところ、別に異常はなかった。別荘と異なると答えて帰ってもらった。



ガンジス川でボート漕ぎ



◎少年少女参拝団 参加者募集◎

毎年夏休みに小学校5年生、6年生を対象に行っています。今年は8月20日(水)、21日(木)の2日間となります。定員は60名、達し次第お断りさせていただきます。各寺院へ募集要項をお知らせしますので、詳しくはそちらをご覧ください。



総本山誓願寺だより

◆おもな行事予定

- 三月
  - 十四日(金) 善導忌・六阿弥陀功德日
  - 十八日(火)～二十四日(月) 春彼岸
  - 二十五日(火)～四月四日(金) 法脈相承
- 四月
  - 五日(土) 花まつり
  - 十五日(火) 六阿弥陀功德日
  - 二十三日(水)～二十五日(金) 元祖法然上人御忌法要
- 五月
  - 十八日(日) 六阿弥陀功德日
- 六月
  - 二日(日) 和泉式部忌
  - 十九日(木) 六阿弥陀功德日
- 七月
  - 十四日(月) 六阿弥陀功德日
- 八月
  - 十五日(金) 六阿弥陀功德日
  - 十六日(土) 精霊送り・盆施餓鬼
  - 二十日(水)～二十二日(木) 少年少女参拝団

クイズコーナー

【問題】

宝蔵寺と関係のある江戸時代の画家は誰でしょう？漢字四文字でお答え下さい。

○○○○

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、菩提寺(たんな寺)、感想や質問を必ず書いて送って下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご本人にご連絡致します。名前の掲載の困る方は、その時にご返事下さい。今回は、蓮華寺さまより風呂敷、本山謹製線香をそれぞれ5名の方、合計10名の方に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒四四四-〇三二四

西尾市下矢田町郷二

養寿寺内 ちかい編集係

答え ○○○○  
郵便番号  
住所  
氏名  
菩提寺(たんな寺)  
感想・質問等

【締切】五月十日  
(消印有効)

ちかい 第140号

発行日 平成二十六年三月五日  
発行所 浄土宗西山深草派  
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地  
電話 (〇七五) 二二二-〇九五八  
FAX (〇七五) 二二二-二〇一九  
E-mail info@fukakusa.or.jp  
URL http://www.fukakusa.or.jp/

何でも

# お寺探偵団



蓮華寺

Vol.38



## profile

稲田順学師 (蓮華寺 第28世) 71歳

昭和18年、名古屋市中区古渡に生まれる。父親の戦死により、祖父の居る稲沢市真福寺に疎開。佛教学卒。大谷大学修士課程修了。昭和43年、蓮華寺に入って稲田姓となり、昭和46年住職拝命。名古屋で唯一の深草派寺院の住職として月参りに専心しつつ、宗派の教育機関である宗学院・布教講習所において講義を担当。

今回は名古屋市の「金袋山宝池院 蓮華寺」を訪ねました。

### Q1 お寺の歴史を教えてください。

当寺は、延宝7年(1679)、深蓮社入誉松音恵信上人が名古屋城下堀川の西端に建てた草庵に始まります。元禄年中(1688~1704)、海西郡山路村蓮華寺の号をここに移しました。昔の地名は「広井村内屋敷」といいます。

安永7年(1778)、火災によって全焼。文化3年(1806)、深草派本山誓願寺の末寺となりました。この間、所属の本寺も住職も頻繁に入れ替わっていたようです。

第12世中興封空禅耕利見上人が本堂・庫裡を再建し、文化4年(1807)、「香衣地」という寺格を再興されました。以後、寺運は開け、第13世場空宏道上人は大本山圓福寺に晋山。尾張藩主徳川斉朝公も二度来訪されたそうです。

しかし昭和9年(1934)、都市計画により墓地を八事霊園に移転。昭和20年5月17日早朝の名古屋大空襲で本

堂以下全焼し、往時の面影を失いました。

昭和22年、第27世成空太道上人が仮御堂を建てましたが、昭和41年に59歳で急逝。法兄弟の谷川準照師に代務住職を仰ぎ、縁故寺院の扶助のもと、成空上人のお庫裡が資格を取って月参りを継承し、寺と檀信徒を守りました。昭和57年、鉄筋コンクリートの現本堂が完成しました。

### Q2 お寺の宝物は何ですか？

戦災をくぐり抜けた過去帳(檀信徒霊名簿)と、そして何より檀信徒の計り知れない芳志で再建されたこの本堂です。

戦時中は、住職の成空上人が従軍しており、留守を守ったお庫裡が、焼夷弾の降る中、かろうじて御本尊と過去帖一冊のみを運び出し、新城市海老の実家に疎開しました。

過去帳は、明治元年以降の記録を昭和12年に筆写新調したものです。その筆を執ったのは、奇しくも当時、蓮華寺を手伝っていた私の実父、村下圭仙

(東山禅林寺第78世大空圭学大和尚の弟子)でした。また昭和20年のページには、復員した太道上人の手で空襲罹災の経緯や終戦の記録が刻まれています。

そして、戦後の困難な時代を共に乗り越えた檀信徒から寄せられた、たくさん浄財によって再建を果たしたのが今の本堂です。これにまさる宝はありません。

### Q3 お坊さんとしての心がけは？

一遍上人のお歌「心より 心を得んと 心得て 心にまよう 心なりけり」が身にしみている私ですが、日々、檀信徒の皆さんから頂いているねんごろな心尽くしに答えていけるように心がけています。

### Q4 読者へのプレゼントをお願いします。

平成19年(2007)に書齋と庫裡を兼ねた「瑞芳文庫」を新築した際の記念品の風呂敷を5名様に差し上げます。

#### 【交通】

JR・名鉄・近鉄で「名古屋駅」下車。タクシーで数分。徒歩15分。

#### 【年中行事】

- 修正会 元旦
- 春彼岸会墓経 3月中旬の土日
- 花まつり 4月8日
- 盂蘭盆会墓経 8月上旬の土日
- 精霊送り供養 8月15日
- 盆施餓鬼会 8月16日
- 永代経祠堂法要 11月中旬の日曜

#### 【お問い合わせ】

蓮華寺  
〒450-0003  
愛知県名古屋市中村区名駅南2-2-15  
TEL 052-561-3901  
FAX 052-561-8079



過去帳



本堂外観



本堂内陣